



平成 27 年 5 月 27 日

各 位

会 社 名 株式会社免疫生物研究所  
(コード番号: 4570)  
本店所在地 群馬県藤岡市中字東田 1091 番地 1  
代 表 者 代表取締役社長 清 藤 勉  
問 合 せ 先 取締役事業統括推進本部長 中 川 正 人  
電 話 番 号 0274-22-2889 (代表)  
U R L <http://www.ibl-japan.co.jp>

## 平成 28 年 3 月期～平成 30 年 3 月期 中期経営計画

当社は、平成 30 年 3 月期を加えた新たな中期経営計画（以下「新中期経営計画」）を下記のとおり策定致しましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 今後 3 か年の中期経営計画

##### (1) 当中期経営計画提出時点における前事業年度の総括

当社グループの主力事業が属する医薬品業界は、医療費抑制政策進展や新薬創出の承認審査の厳格化等によるジェネリック医薬品への代替促進等が進むものとみられております。そのような中、大手製薬企業においては、医薬品への研究開発において、さらなる選択と集中が進み有望な新規医薬品の開発力強化が期待されております。

このような状況の下、当社グループのセグメント別での業績は、次のとおりであります。

##### 【診断・試薬事業】

当事業は、当社の有する抗体作製技術により生産される研究用試薬や体外診断用医薬品を国内外のアカデミアの研究者や医薬関連企業等へ販売を行っております。

当事業の業績は、国内の研究用試薬につきましては、タカラバイオ株式会社との独占販売契約を非独占販売契約に変更（平成26年12月19日付「タカラバイオ株式会社との販売契約の変更に関するお知らせ」を参照）し、収益性が向上しております。また、ユーザーの皆様と直接情報交換を行うことにより、販売機会が向上しております。また、海外につきましても海外担当部署の設置によりアルツハイマー病関連製品を始め、幅広い分野での製品が販売されました。

体外診断用医薬品につきましては、動物用体外診断用医薬品である牛海綿状脳症測定キットの販売を行っており安定した収益源となりました。

その結果、当セグメントの売上高は504,917千円、営業損失は26,594千円となりました。

##### 【遺伝子組換えカイコ事業】

当事業は、医薬品、体外診断用医薬品及び動物用医薬品等の原料であるタンパク質の作製方法において、従来の微生物や動物等でのタンパク質作製方法とは異なる遺伝子組換えカイコの繭から有用なタンパク質を産出する技術を有しております。その技術は、従来のタンパク質の作製方法に比べ、安全性や安定性、さらにコスト面や動物愛護の問題等で優位性を有しております。また、従来の方法では、作製困難な「フィブリノゲン」などの複雑なタンパク質も産出に成功しております。

当事業の業績につきましては、作製された有用なタンパク質を体外診断用医薬品及び動物医薬品原料として医薬品関連企業等への販売が増加しております。また、アステラス製薬株式会社と共同研究を実施している「ヒト型フィブリノゲン」を原料とする医薬品の開発は、平成25年12月24日締結の共同研究の結果を踏まえ、新たな共同研究を締結（平成27年3月31日付「アステラス製薬株式会社との新たな共同研究契約締結のお知らせ」を参照）し、契約一時金を受領いたしました。

さらに、同事業では、インフルエンザワクチンの共同開発を始め、医薬品関連企業等との研究開発を進めております。

その結果、当セグメントの売上高は、90,519千円、営業損失は44,881千円となりました。

#### 【検査事業】

当事業は、脂質代謝解析技術を利用した生活習慣病領域での創薬・研究支援に加え、予防・診断支援やペットに対するコレステロールと中性脂肪の測定ができるサービスを提供しております。

当事業の業績につきましては、近年のペットブームの影響により、ペット向けのコレステロール及び中性脂肪の測定サービスが順調に伸びております。しかし、大型受注を見込んでいた新規脂質異常症治療薬開発プロジェクトが中止となり販売額が大幅に減少いたしました。

その結果、当セグメントの売上高は、109,977千円、営業損失は38,807千円となりました。

#### 【化粧品関連事業】

当事業は、当社グループの遺伝子組換えカイコ事業において開発したネオシルク®-ヒト・コラーゲン（化粧品原料）及びネオシルク®-ヒト・コラーゲン配合化粧品を化粧品業界や消費者の皆様幅広く販売するため、連結完全子会社の株式会社ネオシルク化粧品及び連結子会社の株式会社エムコスメティックスが事業を展開しております。しかしながら、当事業につきましては、連結子会社の株式会社エムコスメティックスとの関係が当社グループ全体の経営基盤の安定化につながらないと判断したため、平成27年3月31日付にて当社所有の同社全株式を第三者へ譲渡（平成27年3月27日付「連結子会社の異動（株式譲渡）および特別損失発生に関するお知らせ」を参照）致しました。

当事業の業績につきましては、株式会社エムコスメティックスの経営不振（平成26年12月19日付「当社子会社株式の減損処理に伴う特別損失計上に関するお知らせ」及び「業績予想の修正及び役員報酬の減額に関するお知らせ」を参照）により売上高は伸び悩みました。また、連結完全子会社の株式会社ネオシルク化粧品においては、昨年7月より通信販売サイトを立ち上げ、ネオシルク®-ヒト・コラーゲン配合化粧品「フレヴァン」を直接消費者の皆様へお届けするため、広告宣伝及び販売促進活動を積極的に行っており、今期以降の販売増を目的とした広告宣伝費が増加いたしました。

その結果、当セグメントの売上高は、25,213千円、営業損失は74,923千円となりました。

これらの結果、売上高は729,030千円となりました。営業損益においては、共同研究先の経費負担による経費軽減や様々な経費圧縮を継続しておりましたが、各事業において研究開発や設備投資による償却負担増、化粧品関連事業の経費負担の増加により、営業損失181,517千円となり、経常損益においては、外貨建資産の期末評価替えによる為替差益（営業外収益）計上等により経常損失139,084千円となりました。当期純損益につきましては、株式会社エムコスメティックスの株式売却損（特別損失）を計上したこと等により、当期純損失158,480千円となりました。

## （2）中期経営計画の概要及び策定の背景

当社は、創業以来30年以上、バイオ・ライフサイエンスの領域にて事業を営んできてお

りますが、本領域は、非常に流動的であり環境変化のスピードが早いため、競争が激しいグローバル社会においては、常に新しい分野、および新しい技術に目を向け、柔軟に対応していく力がなければ生き残っていくことは難しいと考えております。

そのような環境のもと、当社は、時代の流れに柔軟に対応し、激しい競争社会で生き残っていくために、ここ数年間、新たな技術・事業の獲得に積極的に投資を行ってまいりました。

その結果、従来の診断・試薬事業に加え、遺伝子組換えカイコ事業、検査事業、そして、化粧品事業を獲得し、グループ会社として組織を編成し、4つの事業を柱として、事業間でのシナジー効果を最大限に発揮し、業績改善に尽力してまいります。

(3) 事業の進捗状況及び今後の見通し並びにその前提条件  
セグメント別の主な事業戦略及び売上目標について

**【診断・試薬事業】**

・平成 27 年 1 月 1 日よりタカラバイオ株式会社との国内独占販売契約を見直し、国内非独占契約へと変更致しました。

⇒日本全国の代理店及びユーザーに対し、直接営業活動を実施し、売上高および収益率の向上に努め独占契約直前期の売上高へ回復させてまいります。

・海外販売活動を強化してまいります。

⇒海外担当部署を設置し、海外代理店との情報連携を強化するとともに海外ユーザーへきめ細かい情報提供が出来る仕組みを構築してまいります。

⇒同事業の強みであるアルツハイマー病関連製品（「アミロイドβ」関連製品）は、製品の品揃えが豊富で国内販売における主力製品の一つですが、競合他社の特許および販売契約条件等により、海外への販売活動に制限があり、市場ニーズがあっても販売をおこなうことができませんでした。

この度、競合他社の特許切れに伴い、2016年1月1日より、全世界にて向け、直接アミロイドβ関連製品の販売活動ができるようになります。それに伴い、海外代理店と連携を強化し、海外市場において販売を促進してまいります。

・得意分野における研究用試薬製品を順次上市してまいります。

⇒老化関連分子に対する抗体・測定系の開発を進めております。この領域においては、既に可溶性α-Klotho測定キットを製品化し、国内外を問わず広く使用されております。本分子以外にも老化に関連する分子に対する抗体・測定系の開発を進めており、順次、上市を計画しております。

⇒認知症関連タンパク質として、アミロイドβを中心とした種々のタンパク質に対する抗体・測定系の開発を進めています。これまでもアミロイドβ、及びその前駆体蛋白であるAPPなどに対する製品を広くラインアップしておりますが、新規の分子種に対する開発を継続しております。順次、上市を計画しており、さらにユニークな製品を開発してまいります。

⇒メタボリックシンドローム・生活習慣病関連分子に対する抗体・測定系の開発を進めております。これまでも糖代謝、脂質代謝、及び血圧調節などに関連する分子に対して特異的な測定系を開発、製品化しており、順次、上市を計画、さらに、継続して特徴のある新規測定系を開発してまいります。

・体外診断用医薬品の早期製品化を目指してまいります。

(今期製品化)

⇒L P L (リボ蛋白リパーゼ) のラテックス自動化診断薬を製品化し、売上高の増加を目指してまいります。

L P L の診断薬は、既に脂質異常症の高TG血症患者を対象として他社から販売されておりますが、当社が販売を開始する製品は、ラテックス凝集法による自動分析装置での測定用になります。これにより少数の検体から多数の検体まで幅広く対応することが出来、測定操作も簡便になり検査センターや病院の検査部門などでも広く測定することが可能となります。

(来期以降の製品化)

⇒学校法人埼玉医科大学が所有する、難聴・めまいの原因を生化学的に診断できる世界初のバイオマーカー「CTP (cochlin-tomoprotein)」に関する発明に対して、これを利用した体外診断用キット等を独占的に製造及び販売できる特許権等実施許諾契約を締結し、体外診断用医薬品に向けた製品開発を行っております。

⇒成人T細胞白血病の発症原因ウイルスであるHTLV-1に対する感染防御(中和)効果を有するネズミの抗体を医薬品としてヒトに適用するためのヒト化に成功し、新規治療薬シーズとして研究開発を進めております。さらに、ATL新規治療薬のスクリーニング、薬効評価のための疾患モデル細胞や動物に関する研究、及び診断に有効と考えられる関連タンパク質に対する抗体や測定系の開発も並行して進めております。

⇒筋ジストロフィー症のマーカー分子に対する測定系の開発を行っております。筋ジストロフィーは筋肉の委縮を特徴とする遺伝性の疾患ですが、その体液中のバイオマーカーになりうる可能性のあるタンパク質に対して抗体・測定系を開発し診断薬としての製品化を目指してまいります。

⇒当社は、大学等との共同研究から、神経細胞に毒性を有するとされているアミロイドβの毒性コンフォマーに対する抗体を創出しております。大学と共同でモデル動物を使った薬効試験によるアルツハイマー型認知症治療薬シーズとしての評価、さらに診断薬としての臨床的意義の検証を、進めております。

・体外診断用医薬品の受託製造を継続してまいります。

⇒既に、動物用体外診断用医薬品として、牛海綿状脳症に対する動物用体外診断用医薬品を受託製造しております。この他にも、いくつかの体外診断用医薬品、及びその原料抗体などの受託製造を進めており、安定的な収益につなげてまいります。

・売上目標 (単位：百万円)

	25年3月期 (実績)	26年3月期 (実績)	27年3月期 (実績)	28年3月期 (予想)	29年3月期 (目標)	30年3月期 (目標)
試薬用関連	566	438	393	450	520	570
医薬用関連	195	81	111	110	120	150
診断・試薬事業	762	520	504	560	640	720

【遺伝子組換えカイコ事業】

・体外診断用医薬品の新規製品化に向けた原料供給を行っております。

⇒カイコ生産抗体の優位性が明らかとなり、大手医薬品関連企業における体外診断用医薬品の新製品開発が順調に進行しており、今後は、飛躍的な売上高の増加を見込んでおります。

・動物用医薬品の新規製品化に向けた原料供給を行っております。

⇒大手動物医薬品関連企業における動物用医薬品の新製品開発が順調に進行しており、製品化へ向け、売上高の増加を見込んでおります。

・GMPに準拠した遺伝子組換えカイコによるタンパク質製造方法の構築

⇒当社は、アステラス製薬株式会社との遺伝子組換えカイコで生産したヒト型フィブリノゲンを原料とした医薬品の製品化へ向け、平成26年1月1日より開始した「有用タンパク質の性状に関する基礎検討及び医薬品に向けた製造方法の検討等」の共同研究は終了し、これらの結果を踏まえ、次のステップに進めるため、「ヒト型フィブリノゲンの大量生産に向けた製造方法の検討等、パイロットプラント（群馬県前橋市）による試験生産」の共同研究を平成27年3月31日より開始しております。

⇒有限会社生物資源研究所との、遺伝子組換えカイコによるインフルエンザワクチンの実用化を目指した共同開発は、着実に進行し、インフルエンザウイルスH1N1亜型のワクチン原料と成り得るタンパク質の生産に成功し、現在は、強毒性鳥インフルエンザウイルスH5N1亜型ワクチンの開発にも取り組んでおります。

・同事業が開発した有用なタンパク質の収益化

⇒遺伝子組換えカイコにより生産されたタンパク質の優位性を医薬品関連企業等へ周知し、連携先を模索してまいります。

・売上目標（単位：百万円）

	26年3月期 (実績)	27年3月期 (実績)	28年3月期 (予想)	29年3月期 (目標)	30年3月期 (目標)
遺伝子組換えカイコ事業	26	90	110	280	360

※27年3月期の数値には、アステラス製薬㈱からの一時金が含まれております。

【検査事業】

・診断・試薬事業との連携により 新規取引先の拡大を図ってまいります。

⇒診断・試薬事業における営業活動において、同事業の新規治療薬研究・開発に付帯する、高速液体クロマトグラフィーを用いた独自分析技術によるリポタンパク質プロファイル分析業務の受注活動を実施し、売上高の増加を図ってまいります。

・ペットに対するコレステロールと中性脂肪の測定サービスの拡大を図ってまいります。

⇒ペットブームの時流に乗り、同分野の受注件数は順調に伸びており、今後さらに需要の拡大が見込まれております。

・新規サービスの拡大を図ってまいります。

⇒新たに導入したガスクロマトグラフィーを用いて、これらの顧客群に対してLipid（＝脂質）というキーワードに関連した新たな付加価値を提案し、売上の拡大を図ってまいります。

・売上目標（単位：百万円）

	26年3月期 (実績)	27年3月期 (実績)	28年3月期 (予想)	29年3月期 (目標)	30年3月期 (目標)
検査事業	123	109	150	180	220

【化粧品関連事業】

・「ネオシルク・ヒトコラーゲンⅠ」の拡販に注力します。

⇒「ネオシルク・ヒトコラーゲンⅠ」配合化粧品は、当社の完全子会社ネオシルク化粧品「フレヴァン」をはじめ、数社より発売されており、いずれの化粧品も徐々に愛用者が増加して

おります。また、広告やテレビショッピングなどの露出も増えてきていることから化粧品業界からも注目されてきております。当社は、今後、「ネオシルク®・ヒトコラーゲンⅠ」の製造コストの低減を行い、大手化粧品原料取扱企業との連携を模索し、国内外の化粧品メーカーへの導入を進めてまいります。

・「フレヴァン」シリーズのラインナップを充実してまいります。

⇒現在、「クレンジング」「洗顔料」「化粧水」「美容液」「クリーム」「オールインワンジェル」の6品目の販売をしておりますが、今夏「トライアルセット」の新製品発売を予定、今秋に向けて、さらに「BBクリーム」を開発・発売する予定です。

・効率的な広告宣伝活動を実施し、継続愛用者の拡大を図ってまいります。

⇒今までの広告宣伝活動により得られた情報をもとに、マーケティングの専門家による分析を行い、今後、効率的な広告宣伝を実施し、新規顧客の獲得を図ってまいります。また、相談窓口やフォロー体制を強化し、新規顧客から継続愛用者への転換に注力してまいります。

・売上目標（単位：百万円）

	26年3月期 (実績)	27年3月期 (実績)	28年3月期 (予想)	29年3月期 (目標)	30年3月期 (目標)
化粧品関連事業	0	25	80	150	220

## 2. 今期の業績予想及び今後の業績目標

新中期経営計画（連結）

（単位：百万円）

	平成28年 3月期 (予想)	平成29年 3月期 (目標)	平成30年 3月期 (目標)
売上高	900	1,250	1,520
診断・試薬事業	560	640	720
遺伝子組換えカイコ事業	110	280	360
検査事業	150	180	220
化粧品関連事業	80	150	220
営業利益（△損失）	△35	100	180
経常利益（△損失）	△50	—	—
当期純利益（△損失）	20	—	—

※平成28年3月期は、平成27年5月13日公表した「平成27年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」の連結業績予想の数値と同一になります。

※平成28年3月期の経常利益につきましては、海外取扱製品の輸入における為替相場の変動による為替差損を見込んでおります。

※平成28年3月期の当期純利益につきましては、平成27年5月1日に公表しました「投資有価証券売却益」を見込んでおります。

## 3. その他参考状況

今後の収益に影響する新製品の状況につきましては、「1. 今後3か年の中期経営計画（3）事業の進捗状況及び今後の見通し並びにその前提条件」にて、記載のとおりであります。

**【本資料に関する注記事項】**

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上